

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	中央区日本橋人形町 3-4-14 FORECAST 人形町 PLACE 2階
園名	アスクバイリンガル保育園人形町駅前

1. 活動のテーマ

<テーマ>

えいご Countries and cultures (国と文化)

<テーマの設定理由>

- ・昨年度からバイリンガル園となり、日本以外の国への興味を少しずつ持ち始めていた。
- ・子どもたちが他国との違いや発見を口にしたり、興味を持ったりする様子がみられているため、より興味、関心を深めるために設定。

2. 活動スケジュール

2025年6月～2026年3月20日

毎月違う国の文化や言葉を知る

月に1回以上英語講師に各国の文化を伝えてもらい、保育士と一緒に気づきや「なんで？」を考えたり調べたりしていった

※12月～3月は外国の玩具やゲームを取り入れた

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・フラッシュカード：国の内容を伝えるため
- ・国にちなんだ塗り絵：国の文化に触れるため
- ・コップ、ボール：国の有名な物を知る為のクイズで使用
- ・世界のことばあそびえほん：世界のことばを調べるため
- ・せかいのりょうり：せかいの料理を学ぶため
- ・国旗のえほん、リングカード、国旗：国の種類と国旗を学ぶため
- ・せかい地図絵本：国の位置を学ぶため
- ・着せ替えだっこ人形・ザワールド：色々な子どもがいることを伝えるため
- ・絵本 Hello, World! My Body、絵本ベイビーシャーク いっしょにうたおう！えいごのうた：保育者が英語での体の名称や歌を伝えるため
- ・イギリス発！大型めいろブック、るるぶ、日本&世界一周ゲーム、せかいのくにかるた：遊びながら国や文化を学ぶため
- ・にっぽん都道府県かるた、にっぽん地図絵本：自国を知るため
- ・マンカラ：海外の遊びを経験するため
- ・折り紙：国旗製作で使用

<環境設定>

- ・都度フラッシュカードを使い、様々な国のイメージを持ちやすいようにした
- ・少人数でのグループを作り、個々の意見を発言しやすい環境を作った

4. 探究活動の実践

【3～5 歳児実施分】

問いを考える：

- ①世界にはいくつの国があるのか？
- ②どんなご飯を食べているのか？
- ③言葉は同じなのか？

を前提としていたが、0 からのスタートでイメージしていくことが難しかった為フラッシュカードを使用していった。また、イラストのカードではイメージが膨らみにくく、写真のカードに変更していった。

この国旗見たことある？この料理はどんな味がするのか？どんな建物があるのか？気温はどうか？等情報を与え声を掛けながら、「なんで？」を引き出すようにした。

探究活動の様子：

自分たちが知っている食べ物や見た事のある物に対しては反応が良く、「食べたことある」「ジェラートってここでつくるの？」と発言やなんで？がうまれる。

食文化ではフィリピンの文化では白米とマンゴーを一緒に食べると聞き、「ちょっとまずそう…」「えー信じられない！」「一緒には食べたくないね」と驚き、自分たちのご飯と違う事を知る。

また、イタリアではピザ(マルゲリータ)が有名である事を知り、「国旗の色と一緒に」との気づきを言葉にする姿が見られた。

各国の建物では「プリンセスがいそう」「お城みたい」「スカイツリーみたい」「みんなで行ってみよう」と興味を持ち、グループで「飛行機かな？」「電車かな？」と話を進めていく。

一番探究心が見られたのはフィンランドで、サンタクロース村があることを知り、「サンタさん本当に住んでるの？」「見に行ってみたい。」「お家行きたいよね」と盛り上がる。サンタ村には何があるのかイメージをして個々に描くと、プレゼントや暖房、ツリー、洋服など自分たちがイメージした世界を表現していた。

新たに得た情報と知っていた情報をつなぎ合わせて発言し、図鑑や絵本を使って友だちと調べる姿が増える。

ふりかえり(保育士の気付き)：

イメージのわからないものに関してはまずイメージを持って貰う環境づくりから行う事が必要であると感じた。イメージがないと情報を受け入れてしまう子が多かったため子どもの発言が出てくるまではこまめな言葉のアシストを行い、「なんで？」を引き出していく。身近なものや生活と絡めて疑問を投げかけることで探究心「なんで？」が出るようになった。

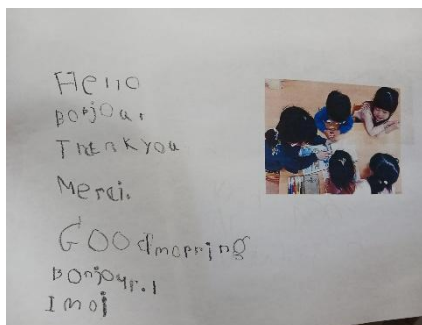
様々な国を伝えることで、知識が増え違いに気付き発言が増えることが分かった。

5. 活動の様子が分かる写真

3～5 歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	中央区日本橋人形町 3-4-14 FORECAST 人形町 PLACE 2階
園名	アスクバイリンガル保育園人形町駅前

1. 活動のテーマ

<テーマ>

おんがく 生活と音

<テーマの設定理由>

- ・園が道路沿いにあることもあり、日頃から生活の中にある身近な音をたくさん聞き「消防車!」「工事してるのかな?」など反応する姿が見られていたため設定。
- ・それぞれにある音の違いや音の意味を知り興味を深めるため。

2. 活動スケジュール

2025年6.7月 身近にある音探し
2025年8.9月 音を使って音楽づくり
2025年10.11月 音がなくなった時、聞こえなかった時を体験する～手話～
2025年12月、2026年1月 楽器に触れて似てる音探し
保育士と身近にあるものから音を探しながらすくわくをし、月1回以上おんがく講師に

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・園内マップ：音の聞こえる場所を記載するため
- ・トイカメラ：音の聞こえる場所を発見した際の記録道具として使用
- ・小学館の図鑑 NEO いきもの：いきものから音は聞こえるか考えるために使用
- ・教育用キーボード CT-S100：音の聞き分けに使用
- ・おとがいっぱい!たのしいのりものずかん：戸外の音を再現するため
- ・太鼓：鳴らし方による音の違いを知るため
- ・ぬいぐるみ：手話をする際の道具として使用
- ・手話カード：手話の内容を伝えるため
- ・フラッシュカード：ジェスチャーゲームでのお題表示に使用
- ・聴診器：気持ちを知ったり、体の中の音を知ったりするために使用
- ・小学館の図鑑 NEO 音楽、絵本 Hello, World! Music：楽器の種類を学ぶため
- ・クリスマス絵本：合奏の導入として使用
- ・楽器(グロッケン、木琴、タンバリン、トライアングル、ハンドベル、カスタネット)：様々な音に触れるため
- ・ミュージックパッド：音の見立てに使用

4. 探究活動の実践

【3～5 歳児実施分】

問いを考える：

- ①音ってなんだと思う？
- ②みんなの知ってる音って何があるかな？
- ③似てる音ってあるのかな？
- ④色々な音を奏でる楽器って知ってる？
- ⑤音が聞こえなくなるとどうなる？

生活の中で耳にする音に対し、「消防車だ」「何かあったかな？」と問う姿が見られた為、音探しから始める。音の種類や違いに気づいていけるように進めていった。

また、聞こえてくる音から自分たちで奏でられるものはどんなものがあるのかや逆に音のない世界は？と興味が広がった。

探究活動の様子：

目をつぶってどんな音がする？という問いに

「足音、上履きの足音は小さな音だった」「カメラの音 カシャって言ってた」

「工事の音 ブウーンって言ってた」「友だちの声 きこえた」

と耳を澄ませた結果反応が多く返って来る。

散歩時も音に関する発言や擬音語で表現する姿が見られた。

音に関する興味が広がったため、iPad を使用してどんな音に聞こえるかを考えた。

怖い音と楽しい音があることを伝え、救急車のサイレンを聴くと

「なんで助けてあげる為の救急車なのに怖い音なんだろうね」との発言がある。

オルガンをういて和音をかえてサイレン音を弾くと

「楽しい音に聞こえるから違うね」と友だちと確認し、普段聞いているサイレン音がわくわくする音ではないという事に気づく。

音楽づくりでは怖い音、聞きやすい音をグループで話し合っ決めていく。

自由時間の歌を作ることに決まると「パズル、ロボット、ぬりえ、おままごと」と歌詞に取りいれたいワードをグループごとに出し合い、書いたものをグループごとに発表する。

自分たちが作った曲という事もあり、恥ずかしそうにする子や作った喜びが表情に出ている子と様々な様子が見られた。

耳が聞こえなかったら？問いには「なにもできない」「話せないよね」と困った様子。

「何かを書く？」と声を掛けると、「手で動かすのは？」とジェスチャーから手話に発展する。動物を表す手話では連想した動物を言葉にしており、自分のイメージで作り上げる姿も見られ、好きな手話の発表も行う。

ふりかえり(保育士の気付き)：

声かけは必要としたが、実際に聞いた音や体験したことを辿っていくことで子どもたちからの発言が増える。同じリズムでも音の違いや感じ方の違いを比べることで子どもたち自身が疑問に感じる様子が見られた為、日々の生活の中でも様々な音に目を向けていくことが大切だと気付く。

グループでの話し合いは経験が少ないため、少人数での話し合いの場を多く取り入れ、自分の意見と友だちの意見の違いや共感を知ることのできるよう今後は進めていきたい。

5. 活動の様子が分かる写真

3～5 歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)

